

この資料は、ユーシービーが2017年11月8日に発表したプレスリリースを日本語に翻訳したものです。
この資料の正式言語は英語であり、その内容及びその解釈については英語を優先します。
詳細は <https://www.ucb.com/worldwide> をご参照下さい。

既存骨折を有する骨粗鬆症女性患者における、 将来の骨折リスク増加を示す新研究発表

- スウェーデンの観察研究¹により、前回の骨折から最初の2年間に骨折リスクが最も高いことが示された
- 大腿骨近位部骨折やその他の部位の脆弱性骨折後よりも、脊椎骨折後に再骨折のリスクが高かった¹

ブリュッセル、ベルギー（2017年11月8日）：ユーシービーは本日、脆弱性骨折を1回、2回または3回経験した女性患者におけるその後の骨粗鬆症性骨折の経時的リスクを評価したスウェーデンの後ろ向き観察コホート研究の結果を発表しました。解析の結果、骨折未経験の患者と比較して、前回の骨折から最初の2年間で再骨折のリスクが最も高まりました¹。この解析は Quantify Research がユーシービーの資金提供により行ったもので、英国グラスゴーで開催された国際医薬経済・アウトカム研究学会（IPSOR）第20回年次ヨーロッパ会議において発表されました。

「過去に骨粗鬆症性骨折を経験した患者さんにおいて、その後の骨折リスクは特に骨折後の最初の数か月間で非常に高まるのがこれらのデータから示されました」と、ルンド大学スコネ大学病院整形外科（スウェーデン）の教授 Kristina Åkesson はコメントし、「骨折による個人的、社会的費用と医療費負担は改めて言うまでもなく、これらの結果は、骨折を警告のサインとして捉え、将来の骨折を予防するために骨粗鬆症の早期診断と治療に最優先で取り組むべきであることを示しています」と締めくくりました。

この研究は、スウェーデンの1998年～2015年の患者登録に含まれていた女性229,259例のデータを使用し、2006年から2012年までの間に脆弱性骨折を1回、2回または3回起こした49歳を超える女性を対象に実施されたもので、1回目、2回目または3回目の脆弱性骨折（大腿骨近位部、脊椎、橈骨、上腕骨）を起こした女性におけるその後の大きな骨粗鬆症性骨折のリスクを、骨折未経験の患者と比較して経時的に推定することを目的に行われました。骨折を複数回起こした女性では、さまざまなベースライン特性（年齢、従属性、糖質コルチコイド使用等）をコントロールした後も、骨折未経験の患者と比較して再骨折の高いリスクが認められました¹。過去に2回骨折した女性は1回のみよりもリスクが高く、2回目の大きな骨粗鬆症性骨折の1年、2年、5年の累積発現率はそれぞれ6%、12%、25%で、3回目の骨折の累積発現率はそれぞれ10%、19%、40%になりました¹。

この解析の結果、脊椎骨折後は骨折リスクが高まり、骨折の種類が将来の骨折リスクに影響を及ぼすことが示されました¹。

「脆弱性骨折の予防には、公衆衛生上高い優先順位で取り組まなければなりません。骨折はその後の骨折につながりますが、それにもかかわらず骨折患者の80%は骨粗鬆症の適切な治療を受けていません。最初の骨折という警告サインに対応していないため、2回目以降の骨折リスクが高まります」と、ユーシービーの副社長兼骨領域部門長であるパスカル・リッチェッタはコメントし、「ユーシービーは、脆弱性骨折に伴うリスクと骨粗鬆症の診断・治療の重要性に対する患者さんと医療関係者の方々の意識向上に取り組んでいます。骨折リエゾンサービス（Fracture Liaison Services）*に注目すべきです。骨折リエゾンサービスは骨折後の医療の有効なモデルであることが証明されており、医療制度の負担を軽減し、骨折を減らすことによって患者さんの生活の質（QOL）向上をもたらします」と訴えました。

* 日本では骨粗鬆症リエゾン（osteoporosis liaison service；OLS）が最初の骨折への対応および骨折リスク評価と、新たな骨折の防止、また最初の脆弱性骨折の予防を目的に活動しています。

References

1. Jonsson E, Ström O, Spångéus A, et al. Risk of major osteoporotic fracture (hip, vertebral, radius, humerus [mof]) after first, second and third fragility fracture in a Swedish general population cohort. Presented at IPSOR 2017, Poster # PMS13.

ユーシービーグループについて

ユーシービーグループ（www.ucb.com）は、ベルギーのブリュッセルに本社を置くグローバルバイオフーマで、ニューロロジーや免疫・炎症領域の重篤な疾患と共に生きる患者さんのより良い生活の実現を目指して、革新的な医薬品の研究開発や創薬ならびにソリューションの提供に力を注いでいます。世界約40か国に拠点を置き、従業員数は7,500名以上を擁しており、2016年の収益は42億ユーロ（約5,000億円）でした。ユーシービーはユーロネクスト・ブリュッセル証券市場に上場しています（シンボル：UCB）。

ユーシービー・ジャパンは1988年に設立され、抗てんかん薬「イーケプラ®」、「ビムパット®」、関節リウマチ治療薬「シムジア®」を中心に事業を展開しています。これからも、患者さんの価値を創造するバイオフーマリーダーとして、従来の治療で十分な改善が得られなかった患者さんに新たな治療の選択肢を提供することを目指して、日本の医療・健康へ更に貢献することを使命として参ります。

この件に関するお問い合わせは下記にお願いします。

ユーシービー・ジャパン株式会社 広報部

電話：03-6864-7633

<http://www.ucbjapan.com>